



# 困難を乗り越え発展し続ける

# タンタウ



①タンタウ社事務所



②見本温室

2006年に100周年を迎えたタンタウ社が、今や世界中でそのバラが栽培されるローズナーセリーとなるまでの道のりは、平坦ではありませんでした。二度の世界大戦、1925年の雹嵐など、幾度となく危機を乗り越えて、バラの品種改良を進め、たくさんのバラ苗木を生産し、広く普及させてきました。



アイスフォーゲル

特に二代目のマティアス・ジュニアは、育種と事業の両方の才能に恵まれ、西ドイツの初代首相であったコンラート・アデナウアーの名をいただくバラを発表したり、大輪、芳香、強健さなどを追求したすぐれたバラを輩出し、世界的な成功をおさめました。

1960年代の代表的な品種として、のちに世界バラ会連合殿堂入りを果たした「ドフトボルケ」や、現在でも世界中で愛されている「ブルームーン」が挙げられます。

タンタウ社はその後も東西統一時の首相ヘルムット・コールのバラを発表するなど、まさにドイツの歴史と共に歩み、そこから世界へ向けてすぐれたバラを送り出し続けています。

1985年、偉大なマティアス・ジュニアの後継者として、父と共に長くタンタウ社に貢献してきたハンス・ユルゲン・エバースが選ばれ、現在はその息子のクリスティアンが、タンタウ家と父のつくった道を、更に先へと歩み続けています。



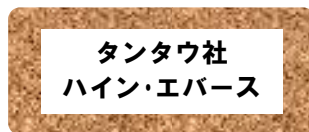
コンラート・アデナウアー首相(当時・右)と、マティアス・タンタウ・ジュニア(左)



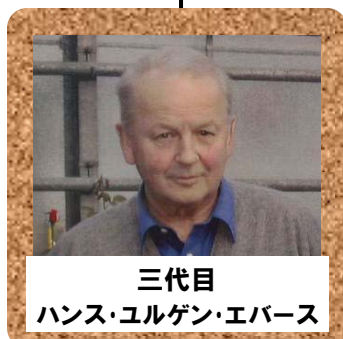
1906年 創業者  
マティアス・タンタウ



二代目  
マティアス・タンタウJr.



タンタウ社  
ハイン・エバース



三代目  
ハンス・ユルゲン・エバース



ヘルムット・コール首相(当時)と、同氏に捧げられたバラ「ヘルムット コール ローズ」



四代目  
クリスティアン・エバース



レイニー ブルー



スピネル

ポラリス アルファ